

フネンパイプの「防露性能」

フネンパイプは塩ビ管と繊維混入モルタル管の二層構造のため通常的环境下では防露施工が不要です。
 しかし、昨今の現場環境と使用条件によっては結露による落滴が発生しています。
 このたび、(一財) 建材試験センター様において特殊な条件下を再現し管種ごとの落滴状況を確認しました。

試験体

- ① フネン(FP)パイプ・継手
- ② 発泡層付き塩ビパイプ・継手
- ③ 塩ビ(VP)パイプ・継手



試験条件

- ①温度 : 30°C
- ②湿度 : 80%
- ③管内水温 : 10°C
- ④配管勾配 : 1/50

試験体ごとの落滴までに至る時間

経過時間	フネンパイプ (FP)		発泡層付き塩ビパイプ		塩ビパイプ (VP管)	
	パイプ	継手	パイプ	継手	パイプ	継手
0.5H (50分)					落滴	
1H						落滴
1.5H						
2H						
2.5H				落滴		
3H						
3.5H						
4H			落滴			
4.5H						
5H						
5.5H						
6H						
6.5H						
7H						
7.5H						
8H	落滴					

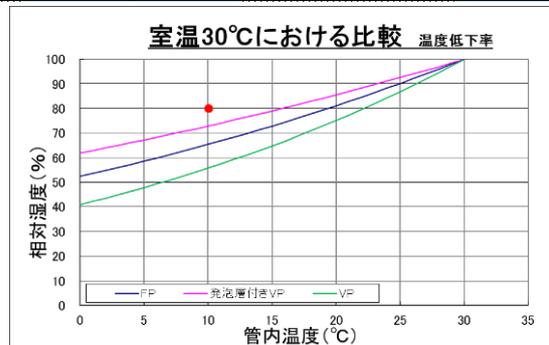
※8時間では落滴なし

フネンパイプ
なら安心!!

思ったより
落滴までが早い

結露してすぐ
落滴してしまう

各試験体の室温 30°Cにおける
 結露曲線の比較グラフ
 ※ 赤丸は結露試験条件



フネンパイプ (耐火二層管) は外管の繊維混入モルタルがあることにより、発生した結露水を吸水し、さらに飽和状態になってから落滴が始まるため、落滴に至るまでの時間が長いことがわかりました。通常的环境下はもちろん、日本の高温多湿な夏場の環境下や、一時的に特殊な条件下に置かれてもすぐに落滴しづらいなどのメリットがあります。
 ※今回の試験結果は特殊な状況下を想定しているため、実際の環境と異なる場合がありますので、参考資料としてご認識いただきますようお願いいたします。